



南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>



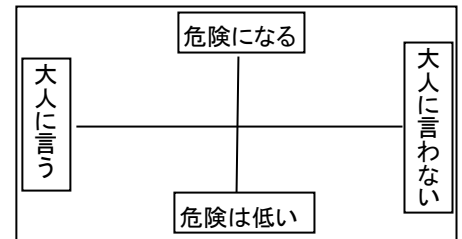
自分を守る

副校長 佐藤 朋実

2月に入るとすぐに暦の上では「節分」「立春」となりますが、まだまだ寒さの厳しい日々が続く時期です。校門に入ってすぐの池に張った氷を見つけて、嬉しそうな様子の子どもたち。季節を上手に楽しんでほしいと思います。

1月の冬休み明けすぐに全学年で「SOSの出し方教室」が行われました。横浜市では年1回「SOSの出し方教育」を行うことになっており、本校では「SOSの出し方教室」として児童支援専任が中心となって授業を進め、各担任も支援に入りながら、発達段階や今の課題に応じた授業を行っています。問題や課題に対して、SOSのサインを発したり、誰かに助けを求めたり、効果的な対処方法を選択して解決していく力を育てていくことを目的としています。発達段階等に応じて、SOSサインの出し方そのものではなく、その下地となる学習として、自己理解や自己表現、他者理解、話の伝え方・聞き方などに関わる内容も取り上げています。

高学年は「大人に打ち明けたほうがいい『秘密』」というタイトルで、友達から相談されたり、悩みを打ち明けられたりしたとき、内容によっては大人に援助を求めなければならない場合について考えました。友達からの相談や悩みの内容として20枚ほどの「秘密」カードが配られ、グループごとにそれぞれの「秘密」をどう扱うか、「大人に言う・言わない」「時間が経つにつれて、命や体や心が危険になる・危険は低い」の2つの観点を合わせて考え、グループごとに右のような配置図にカードを置いていきました。カードに書かれている「秘密」は身近に起こり得るものも多く、子どもたちは真剣に考えていました。まず、グループ内での友達の考えや他のグループの結果を聞くことで、答えや考え方が一つではないことに気付きます。そして、たとえ「誰にも言わないで」と言われても誰か（大人）に伝えなければならない「秘密」もあることを理解していきます。授業では、「(伝えなければいけないことは)分かるけど、やっぱり言えない」という場合も想定して、「秘密」を話してきた本人への返し方、あるいは周りの人への伝え方なども具体的に「こんな風にしては？」と提案されていました。



私自身は個別支援学級の担任経験が多かったのですが、そこで育てたい力の一つとして「自分からヘルプを求められる」ということを念頭に置いていました。必要な場面で適切に「ヘルプを求める」ことはなかなかできません。単に「ヘルプを求めるスキル」だけでなく、さまざまな力や経験が必要です。深刻な悩みを抱えたときなどどのように対処すればよいか、大人でも迷うことがあります。解決のために必要なことを積み重ねていくことは、自分の「心」を守り、ひいては「命」を守っていくために誰にとっても大切なことなのだ、今回の授業をきっかけに改めて考えさせられました。